

平成29年度第1回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成29年9月20日（水） 14:00～15:30
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
千葉代表、貞廣副代表、横溝委員（欠席）、西村委員、井上委員（欠席）、
松下委員、宮崎委員（欠席）、中川委員、徳栴委員、宮澤委員、高樋委員、
碓井委員

事務局

釜田（有隣堂本部）
村田（三洋装備）
古川館長、渡邊副館長、味元（山内図書館）

4. 案 件

- (1) 平成28年度の事業報告
- (2) 平成29年度の図書館事業
- (3) ご意見、ご要望

5. 概要

(1)平成28年度の事業報告（古川館長）

配布資料「平成28年度山内図書館事業報告書」を基に平成28年度の事業報告を行う。

1. 業務運営について 以下の4点を重視し、運営を行う。

- ①コンプライアンス＝コンプライアンス研修、人権研修などを行い、利用者満足度を高めるように努めている。昨年は、人権研修として、生まれつき障害のある方で、現在企業に勤められている方のご家族から経験談を聞き、障害のある方にどう接すればよいか学んだ。
- ②危機管理＝山内図書館は山内地区センターとの複合施設であり、防災面においては合同で訓練を実施している。昨年は火事を想定しての訓練を、本年度は AED の研修を行った。
- ③個人情報保護＝個人情報の保護に関する研修、及び内部監査を行う。
- ④スタッフ研修＝外部の研修にも積極的に参加し、また内部でも接遇研修及び、修理講座を行うなどして、職員およびアルバイトスタッフの能力向上に努めている。

2. 事業について 平成 29 年度に行った事業についてパワーポイントを用いて説明。

平成 26 年度から、読書に関する条例ができたことにより、青葉区役所と連携して読書活動推進に努めている。昨年度までは青葉区役所の窓口は、地域振興課であったが、本年度から子ども家庭支援課に変わった。

本年度は開館 40 周年にあたり、記念事業を幾つか企画している。

①やまちゃんお誕生会 4月

シールを詰めた手作りのくす玉を開いてオープニングとし、おはなし会を開催。さらに年齢別に読書の福袋を用意して貸出を行ったほか、特別バージョンのやまちゃんシールや読書ノートをプレゼントするなどした。

②拡大版 あざみ野ブックカフェ 5月

井上ゆりさん（作家）と小島潔さん（岩波書店編集者）による対談

③展示「この街の記憶」6～7月

青葉区の移り変わりを写真展示で紹介。ひろたりあんさんにもご協力をいただく

④講演会「大山信仰の諸相と大山道」 5月

学術的で硬質な内容であったが、参加者は歴史に深い関心を持つ人が多く、熱心に耳を傾けられ、終了後の質問タイムでも内容に関する深い質疑応答がなされた。

⑤開館 40 周年記念 山内図書館館内ツアー 10月

10月18日に予定。普段は入室できない書庫なども見学していただく。

⑥開館 40 周年記念 「わたしの 1 冊」 9月～11月

展示コーナーに掲示。図書館職員、スタッフ、ボランティアの方などに、お気に入りの本を手写真におさまってもらい、本を紹介してもらおう。前期、後期に分け、80 人の方に登場してもらおう。

⑦なつのおはなし祭り 8月

山内図書館の事業の柱に育った夏の恒例行事。昨年から2日間に分けて開催。本年は警報がでるような悪天候に見舞われ例年より参加者は少なかったが、のべ 800 人ほどが訪れた。

⑧読書のイベントカレンダー

青葉区内の読書に関するイベント情報を掲載したカレンダーを毎月発行。2年目を迎える。山内図書館内で掲示、配付及び、山内図書館ホームページ、青葉区役所ホームページで閲覧できる。

⑨冊子「青葉区読書ガイド 本と出会える場所」の作成

青葉区内の図書貸出施設を紹介するガイドブック（A5判、16ページ）を作成し、山内図書館、青葉区役所で配布。

⑩ビブリオバトルの普及

旧年度から引き続きビブリオバトルの普及に努める。昨年度後半からは、学校に向けた支援を強化した。昨年の12月には山内図書館、都筑図書館、港北図書館、緑図書館、北部教育事務所が協力して、学校の先生を対象にビブリオバトルの研修会を行う。そのほか、青葉区の小学校図書館教育研究会に講師を派遣、また緑区の研究会からも声がかかり、応援に行くなどした。今年、8月あかね台中学校に職業講話に行った際も、ビブリオバトルを行った。12月2日には、「ビブリオバトル×本棚編集ワークショップ」を開催予定、「あたまる」をテーマにビブリオバトルを行うとともに、関連する本を集めて、本を紹介するイベントを企画している。

⑪村上龍トークイベント「RYU'S TALK いつでも夢を」 1月

副館長が聞き手となり、作家の村上龍氏に青葉区や文学に寄せる思いについてお話をいただいた。

⑫牛込及び鉄の獅子舞見学 10月

例年行っている青葉区に伝わる郷土芸能の見学。昨年度は隔年で行われている鉄の獅子舞も行われ、二つの獅子舞の見学を行った。

⑬映画「MARCH」上映会&トークイベント 5月

東大日本大震災復興支援ドキュメンタリー映画。被災地で活動する中学生のマーチングバンドの姿を追ったもの。映画終了後、監督とプロデューサーによるトークショーを開催。映画の中で、「復興支援マッチ」として行われた愛媛FCと横浜FCの試合中に演奏をするシーンがあり、合わせて展示コーナーで横浜FCに関する展示も行い、好評を得た。

⑭座席予約システムの導入

昨年6月から導入。一部の席に時間制限を設け、カウンター脇に設けた端末で、座席券を取り、利用してもらうように変更。多くの人に公平に使ってもらえるようにした。併せて、イスや机を入れ替え、調べもの席はパーテーションで区切られた席とし、持ち込みのパソコンが使用できる席は2席から4席に増設した。

⑮雑誌コーナーのリニューアルの検討

現在は大きな椅子が置かれ、ゆったりとしたコーナーになっているが、図書館全体からみ

ると座席数が不足しているので、本年度の取組として、もう少し多くの人が使えようリニューアルを図りたいと考えている。

⑩駐車場の管理

2017年9月1日から、利用する施設（山内図書館または山内地区センター）で駐車券を発行し、その券を車に掲示した上で利用してもらうように利用の方法を変更。機械を導入し、有料化することも考えたが、条例の改正等も必要になるので、現状では難しい。

⑪ティーンズコーナーの刷新

昨年度末からコーナーを拡大した。それに伴い、近隣の元石川高校の生徒に協力をしてもらい、壁面のディスプレイを担当してもらっている。本年の9月21日からは「文豪ストレイドグッズ」の巡回展示もそのコーナーを利用して行った。また、ホームページにティーンズページを新設。職員が中高生におすすめの本、読んでもらいたい本を紹介しているほか、元石川高校の生徒が動画でおすすめの本を紹介する様子も公開している。

(3) ご意見、ご要望

・映像（画像）等の蓄積は増えているのか？

図) 写真の提供はあり、少しずつ増えている。しかし、撮影場所、年次が特定できない資料が多いことが課題となっている。そのため、データベースに収載できないものがある。また、その後の変容と比較することもできない。

・現在、データベースの蓄積はどうなっているのか。

図) ホームページで閲覧できるようにしている。ただ、地域には偏りがある。青葉台、たまプラーザの写真の提供は多いが、他の地区のものは少ない。

・すごく景色が変わっている場所の写真がない。昔、野原だったところは誰もカメラを向けておらず写真がない。それに引き替え、造成中の写真は多い。青葉台も駅前の写真は多いが、桜台、たちばな台になると少なくなる。また、造成地の写真はどこも似ていて、目印となるものが少ないので、撮影場所を特定するのが難しい。

・いろいろなイベントをされているが、例えば講演会の記録などを見ることはできないか。

図) 特に、講演会のビデオとか、講演内容をまとめたものは残していない

・参加したかったが、都合がつかず行けなかった講演会も多いので、レジュメなど残して、閲覧できるようにしてほしい。あざみ野ブックカフェなど面白いので、参

加した人以外にも、その内容が分かるものを残してもらえるとありがたい。

図) あざみ野ブックカフェはフェイスブックでイベントの告知を行い、終了後は写真とお話の概要をアップしたりしている。村上龍さんの講演会も概要を図書館だよりでお知らせしたりしたが、講演会録（イベント記録）については今後一考していきたい。

・区民のポータルサイト「あおばみん」には、映像アーカイブというサイトがあり、区内のイベントをビデオに撮って、後日、ホームページにアップしている。図書館の大型イベントも取材して、掲載していくのもよいかもかもしれない。

・いろいろなイベントを行っているが、企画はどのように立てているのか？

図) 12月ごろから翌年度の企画を考え始める。毎年、行っている「牛込の獅子舞」の見学会などは、コツコツと地域と時間をかけてつながりをつくってきた。こういうことが地域を再発見する講座の企画につながっている。また、書店であることから出版社とのコラボレーション企画なども実現しやすい。「大山街道の講座」もそこから生まれた。また、今年「一緒にすすく 子育て支援」というコーナーを児童架に新設したが、そういったコーナーの新設も民間ならではのスピード感で迅速に実現できた。

・山内図書館には授乳室があり、子育て世代を応援できる態勢が整っているが、そういうことをもっとアピールしてもよいのではないか。授乳室があることを知らず、図書館の利用を控えている人も多いように思われる。

・青葉区の広報やひろたりあん通信などでイベントの告知を行っているがイベント情報以外に、授乳室があることなど常設のサービスについて知らせるようにしてもよいかもかもしれない。それは、図書館のイメージアップにもつながると思う。

・宅配サービスについても知らない人が多いのではないだろうか。

図) 横浜市で一般の方に宅配サービスを行っているのは山内図書館の限定サービスのため、知らない人も多いと思われる。スタート時は、高齢者の方を主な対象に考えていたが、実際は子育て世代の利用が多くなっている。

・来館者は増えているか。

図) 来館、および貸出は微減の傾向にある。これは横浜だけではなく、全国的な傾向にある。ただ、新規登録は増えている。これは座席予約システムを導入したことが関係している。座席予約システムを利用するために、カードの登録が伸びている。図書館を利用しているがカードを持っていない人が多いことがわかった。また、カードをつくと本を借りようかという気持ちもわいてくるようで、利用促進につながっている。

- ・先日、新しくオープンした大和の図書館を利用してみた。入るとすぐ書架があり、利用者はそこで思い思いに本を読んでいた。一角にはカフェが併設され、借りた本をそこで読んでいる人も見受けた。また、劇場が併設されているが、その劇場の入口も図書館部分にあり、今までの図書館とは違う施設になっていた。そして、多くの若い人たちが利用しているのに驚いた。
- ・あざみの商店街や江田の商店街とコラボして、図書館に足を運んでもらうような企画を立てると、普段図書館を利用していない人も、図書館に足を運ぶきっかけになるのではないだろうか。今度、あざみ野商店街で「ちょい呑み」と言って、3枚つづりのチケットを2500円で買って、3店舗の食べ歩きを楽しむ町おこしイベントがある。こういうとき、図書館では「お酒をテーマ」に展示やビブリオバトル、おはなし会を行うなど、地域とコラボレーションする方法を模索してはどうだろうか。

図) 図書館を利用しない人の意見を集約するにはどうしたらよいだろうか。去年は地区センターでアンケートをとるなどしたが。

- ・アートフォーラムでアンケートを行ってみてはどうだろうか。図書館とは利用者が違う気がする。また、コラボレーションして、アートフォーラムのイベントや展示と連携して、それらに関する本を図書館で展示するなどしてはどうだろうか。
- ・高齢の母親が家族の介護も一段落して、時間ができたからもう一度本を読みたいと言い始めた。字を大きくでき、書店に行かなくても次々と新刊をダウンロードできる iPad が便利かと思い勧めたが、本の厚みを感じられないし、紙の匂いがしないから嫌だと見向きもしなかった。これは、子どものころから紙の本に親しんできたことによると思う。本の好きな子に育てるには、幼いころから本に親しむ環境作りが大切だと感じた。
- ・ディサービスを利用している人から、「自分は塗り絵や貼り絵は嫌い。本が読みたい」という話を聞いたことがある。ディサービス施設等への貸出も考えてもよいかもしれない。
- ・高齢者のために、フォントの大きい文庫本をそろえてほしい。大活字本があるが、あまり読みやすいものではないので。
- ・若いお母さんの中には、子どもが本を汚したり、破ったりするのが心配だから、またケプラザの方からは、お年寄りが食べこぼしをして本を汚すのが心配だから、図書館を利用しないという話を聞いたことがある。

・一方、誰が触ったか分からない本を借りるのは嫌だから、気にいった本は買うようにしているという人の話を聞いたこともある。

図) 自動消毒器を導入している図書館もある。利用者が自分で借りた本をその機械に入れ、照射して借りて帰るという形で行われているところが多い。山内図書館にも導入を希望する意見をご意見箱にいただいたことがあるが、図書館サービスのあり方についての見識にかかわることと、加えて高額なため現段階では導入できない。カバーの汚れがひどいものは、職員が専用クリーナーを使って、拭いて汚れを取っている。

次回の利用者フォーラムは2018年2月21日(水)を予定

配付資料:会議次第

平成28年度 山内図書館事業報告書